

平成25年度総務委員会 行政視察報告書

総務委員長 椎塚 俊裕

1 視察日・視察先・調査事項

視察日	視察先	調査事項
平成26年1月28日(火)	静岡県磐田市	防災への取り組みについて 防災センター視察
平成26年1月29日(水)	愛知県豊橋市	シティプロモーション活動を 推進するために

2 調査内容

1) 静岡県磐田市

磐田市は静岡県西部の天竜川左岸に広がる地域で、北部に森林、南部には海岸や天竜川などの河川など自然豊かである。浜岡原発からは30キロ圏内です。

磐田市危機管理監 山下 重仁様より東海地震・南海トラフ地震対策や津波対策・原発事故対策など想定される中、市民の安全・安心を図るために5つの柱として、防災対策の取り組みについて説明を受けました。

1. 防災意識啓発

- ・「地震だ・津波だ・すぐ避難」の啓蒙
- ・家具固定事業の推進
- ・「海拔表示入り津波啓蒙看板・海拔表示」の設置
- ・「わが家の防災メモ」の配布
- ・「災害に強い地域づくり条例」等

2. 市民への情報配信

- ・長距離伝搬スピーカー（ホーンアレイスピーカー）の試験導入
- ・防災行政ラジオ（個別受信機）の導入等

3. 資機材整備

- ・指定避難所への非常用電源装置設置（エレクピース）
- ・津波監視カメラの設置
- ・磐田市防災センターの設置

4. 津波対策

- ・津波対策作業部会を編成
- ・津波避難施設整備（6基の津波避難タワー建設）

5. 災害時相互応援協定先の拡充

今後の主な防災対策として、第4次地震被害想定に基づく地域防災計画の見直し（原子力編の追加）及び拡大した津波浸水域への対策、磐田市地震津波対策アクションプログラムの策定、液状化対策などと共に、市民への防災意識の啓発に努めていきたい。

説明後に、防災センターを視察し、臨場感あふれる災害対策本部機能や備蓄状況などに驚きと羨ましさを感じました。その後、市内6か所に設置されました津波避難タワーを見学し、実際にタワーに登らせていただき、海岸線から2キロメートルの距離にも関わらず、津波の恐ろしさというものを実感できる経験をさせていただきました。

2) 愛知県豊橋市

愛知県第2の都市で、東三河の中心・中核都市として発展してきたが、外から見た認知度やイメージの浸透度が高くなく、市の魅力や優位性が十分に発信できていない。社会背景も、人口減少・少子高齢化の進展、地方分権・都市間競争の激化などを鑑み、地域が持つ強みを発信し、存在感を高めていく必要があり、市民、事業者、大学及び関係団体が一体となり、シティプロモーション活動推進に取り組んだ。豊橋市シティプロモーション戦略ビジョンの実現に向けたアクションプランとして「ええじゃないか豊橋推進計画」を策定し、

- ① 地域内向けプロモーションとしてアイラブとよはし運動の展開
- ② 地域外向けプロモーションとして、とよはしイメージアップ大作戦の展開
- ③ 計画推進に向けた「広報戦略」と「推進体制等」

を展開し、プロモーションの核となる4つのコンテンツ

（手筒花火、総合動植物公園「のんほいパーク」、路面電車、とよはし食文化）

を具体的事業として推進。

アイラブとよはし運動の展開

豊橋市の魅力を発信するためには、まず、私たち市民が本市の歴史、文化、特性、魅力などを認識し、“豊橋を好きになる”ことが大切です。そこで、「アイラブとよはし運動」を展開し、市民への情報発信、愛着の醸成に取り組みます。

シティプロモーションの展開により、「対内投資」「交流人口」「定住人口」の増大を図ることで、人、モノ、資金、情報の流入を促し、「自立した魅力溢れる都市の実現」を目指す。

シティプロモーション戦略の基本方向として

① 広報（情報）戦略 ②都市イメージ戦略 ③地域セールス戦略

を通して具体的に活動をしている。

説明していただいた、担当課長の熱い語りと豊橋を愛する気持ち、そして何よりも「やりきるんだという」情熱が豊橋のシティプロモーションを推進しているのだと確信しました。

また、終了後は近くの市民病院跡地を利用した「こども未来館ココニコ」を見学しました。

大人と子供がつながる交流施設として、体験・発見プラザ・まちづくりセンター・子育てプラザ・集いプラザ等行政と指定管理業者・民間業者・ボランティアなどがいっしょに館を運営している点は、龍ケ崎市にとって参考になるはずです。